



www. ojipaper. co. jp



環境と文化への貢献

革新とスピード

世界からの信頼

やわらか♡ハート

nepia

王子製紙グループ

www. nepia. co. jp

ネピアテンダー 被災地高齢者支援活動

支える人を支えよう！

2012 年度の取組み

Press Release

2012 年 6 月 20 日

王子製紙株式会社

王子ネピア株式会社

王子ネピアでは、大人用紙おむつ「ネピアテンダー」の売上の一部で

被災地福島での高齢者支援に取り組んでいきます。

王子製紙株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:進藤清貴、以下王子製紙)と、王子ネピア株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:清水紀暁、以下王子ネピア)では、2011 年 3 月に発生した東日本大震災を受け、同年 5 月より、王子ネピア全商品の売上の一部で草の根の NPO を支援する活動、「nepia 東北地方被災地支援活動～支える人を支えよう！」を実施してまいりました。

本年度はこの活動を発展的に継承し、弊社大人用紙おむつ「ネピアテンダー」の売上の一部で、被災地の高齢者支援に取り組む活動「ネピアテンダー 被災地高齢者支援活動～支える人を支えよう！」として継続実施いたします。

具体的な取り組みとしましては、「ネピアテンダー」の売上の一部を拠出し、公益社団法人日本フィランソロピー協会(所在地:東京都千代田区、理事長:高橋陽子、以下日本フィランソロピー協会)を通じて、弊社大人用紙おむつの新工場開設地でもある福島県に活動拠点を置く、「特定非営利活動法人まごころサービス福島センター(所在地:福島県福島市、理事長:須田弘子、以下まごころサービス福島センター)」の活動を支援します。

高齢者のための常設居場所づくり支援、および、その必要性の啓発活動を、社員の参加なども通じて継続的に行っていきます。

全国の皆さま、そして「ネピアテンダー」の新たな生産拠点となる福島県の皆さまとともに、高齢者と家族の笑顔の暮らしを支える、意義ある活動となるよう取り組んでいきます。

■支援する活動の内容

①お年寄りとみんなの笑顔の交流の場「うららか広場」開設 (2012 年 7 月 15 日(日)予定)

本年度はまず、同センターが運営する「ケアホーム高湯の里」に隣接する古い建屋を改修し、ふれあい、助け合いの機会を生み出す常設居場所を開設します。〈お年寄りとみんなの笑顔の交流の場「うららか広場」〉として地域に開放し、近隣の仮設住宅に住む高齢者などを中心に、お年寄りとその家族、地域の方々など、誰もが気軽に立ち寄れる“憩いの場”として運営しながら、お年寄りの心と体のケア支援活動を行います。

また、地域のボランティアなども連携したイベントなどを行うと共に、県外からの福島支援ボランティア受け入れの拠点としても機能していく予定です。

②常設居場所づくりの普及活動

今後、被災地を中心により多くの居場所づくりを進めて行く活動として、常設居場所づくりの意義と必要性の理解浸透を図るシンポジウム、居場所の開設・運営のノウハウに関する、講演・研修・勉強会などの普及活動に、積極的に取り組んでいきます。

■今後の予定

- ・2012年7月15日(日) : 開設式及び浪江町仮設住宅交流会実施予定
- ・2012年8月 : 高齢者と子どもたちのふれあいの会(卓球大会)実施予定
- ・2012年9月 : 居場所づくりシンポジウム
- ・2012年10月 : 居場所づくり勉強会

■支援先団体と活動のご紹介

特定非営利活動法人 まごころサービス福島センター
福島県福島市在庭坂字南林 60-2 理事長: 須田弘子
(<http://www.npomagokoro.com/>)

◇設立: 1992年4月(1999年法人格取得)

◇母体事業:

助け合い事業まごころサービス(介護保険枠外の生活・身体援助、ミニデイサービス、外出付添等)に加え、介護保険事業(訪問、通所、居宅支援、訪看)で高齢者・障害者の自立支援および子育て支援他、介護士など多くの地元スタッフの協力で、まごころケアホーム高湯の里他複数の事業所を営む。

震災後の対応として同法人が県に申請。2012年2月特例として全国で初めて一人訪問看護が許可された。

◇自主事業:

震災後は高齢者ボランティアによる炊き出し「炊き出しばあさん隊」を実施。11年11月からは、地元でできた2カ所の仮設住宅(佐原・しのぶ台)の集会所内にて、「ふれあいカフェ」を展開。毎回看護師が参加し、健康チェックやレクリエーションの他、ストレッチ体操や機能訓練、脳トレーニングなどで心身の活性化をはかり、介護予防に役立っている。また、認知症や介護状態にならないよう、高齢者の孤独や閉じこもりを防ぐため、折り紙・歌唱・手芸・料理・将棋などの趣味と生きがいを通じた社会参加で、地域を巻き込んだ取り組みや支援を行なっている。これら自主活動は母体事業の収入から活動費などに振り当て、スタッフはボランティアで参加・運営している。

今後の支援活動の進捗は、特設サイト「nepia 支える人を支えよう!」www.nepia-sasaeru.comにて、詳しくお伝えして行く予定です。また、同サイトでは、王子ネピアが2011年度に実施した「nepia 東北地方被災地支援活動～支える人を支えよう!」の活動報告も行っています。

東日本大震災において被災されたみなさまに、改めてお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご復興を心からお祈りいたします。

【参考資料】

■「ネピアアテンダー」ブランド(一般市販用商品・業務用商品)の一例



■王子製紙について

王子製紙は、日本で初めて本格的な近代産業として製紙業を開始しました。創業者である洪沢栄一翁の言葉「論語と算盤」、すなわち道徳と経済の合一、倫理と利益の両立という理念を受け継ぎ、事業遂行の基本的精神を表現するものとして、「環境と文化への貢献」、「革新とスピード」、「世界からの信頼」を企業理念としています。「環境と文化への貢献」では、王子製紙は1873年の創業以来約130年間、「読む」「書く」「包む」「拭く」生活のさまざまな場で用いられる紙の安定供給を通じて文化に貢献する会社であることを基本理念としてきました。同時に、森のリサイクル(海外植林)、紙のリサイクル(古紙リサイクル)の推進により積極的に環境保全と循環型社会に貢献する企業であることを目指しています。

(<http://www.ojipaper.co.jp>)

■王子ネピアについて

王子ネピアは、“やわらかハート”のスローガンのもと、すべての商品を通じてみなさまの快適な暮らしのお手伝いを目指しております。ティッシュやトイレットロールをはじめとしてキッチンタオル、赤ちゃん用紙おむつ、大人用紙おむつにいたるまで、お客様の生活に幅広く密着したかたちで、やわらかな肌ざわり、やわらかな使い心地の追求を続けて参りました。また、社会の課題に対して、私たちには何ができるだろうと考え、2007年からは「うんち教室」を、日本トイレ研究所と共に日本の小学校で実施。2008年からは、ユニセフとともに東ティモールでのトイレづくり支援「千のトイレプロジェクト」を立ち上げました。さらに2010年からは、赤ちゃん用紙おむつnepia GENKI!の売上の一部で、入院中の子どもたちに笑顔を届ける「日本クリニクラウン協会」を支援しています。

(<http://www.nepia.co.jp>)

■王子ネピア福島工場について

王子製紙グループでは、需要の拡大が見込まれる大人用紙おむつ市場に、高性能・高品質の製品を継続的・安定的にご提供し続ける生産体制を確立するため、愛知県春日井市に続き、福島県福島市西工業団地に、第二の生産工場を新設することを計画し2011年2月に発表しました。その後実務的に準備を進める一方、震災・原発事故の影響を多角的に評価検証して参りましたが、(1)主要な産業インフラの復旧により、福島新工場での安定生産・安定供給体制構築に、全く不安のないことが確認できたこと、(2)新工場予定地の放射線量は、既に問題ないレベルと判断されるが、今後さらに除染を進め、2011年9月に、改めて当初計画通りプロジェクトを進めることを決定し、2012年秋の生産開始に向けて現在作業進行中です。

■日本フィランソपी協会について

1960年設立。1991年より個人や企業のフィランソピー(社会貢献)活動の促進を目的に、企業へのコンサルテーションや出版・研修事業、顕彰事業等、各種事業を行う。市民、団体、企業、行政の幅広い活動基盤で企業のCSR活動をサポートする。2009年に公益社団法人として認定される。会員企業数は108社(2012年4月1日現在)。※フィランソピーはギリシャ語のフィリア(愛)とアンソロポス(人類)を語源とする合成語で、直訳すると人類愛、慈善のこと。日本では「社会貢献」の意味で使われている。

(<http://www.philanthropy.or.jp/>)